

加藤知子 & 鈴木大介 デュオ・リサイタル

1部

無伴奏ヴァイオリンソナタ
ニ長調 Op.115……………プロコフィエフ
カンタービレ……………バガニーニ
「スペイン舞曲集」より
アンダルシアのロマンス Op.22-1…サラサーテ
「7つのスペイン民謡」から
ホタ 子守り歌 ボロ……………ファリャ

2部

亡き王女のためのパヴァーヌ……………ラヴェル
月の光……………ドビュッシー
「タンゴの歴史」より2番3番……………ピアソラ
6つのルーマニア民俗舞曲……………バルトーク

冬

四季コンサート²⁰⁰¹

2001年12月2日(日) 6:45PM

会場: 浜松市教育文化会館

主催: 浜松音楽友の会

プロフィール

加藤知子 (ヴァイオリン)

4歳よりヴァイオリンを始め、三瓶詠子、久保田良作、江藤俊哉の各氏に師事。第47回日本音楽コンクール第1位、レウカディア賞を受賞し翌年の海外派遣コンクールで特別賞を得た。1980年桐朋学園大学卒業後、数々の音楽祭に参加。又、文化庁在外派遣研修員としてジュリアード音楽院に留学。1982年第7回チャイコフスキー国際コンクール第2位受賞。翌年帰国し、東京文化会館でデビュー・リサイタルを行う。以来国内はもとよりアメリカ、ヨーロッパ等各地でオーケストラとの共演や、リサイタルツアーを行う。ソロ活動の他、室内楽にも意欲的に取り組みアルゲリッチ、マイスキースらとの共演も高く評価されている。

鈴木大介 (ギター)

1970年生まれ。8歳より市村員章、福田進一、尾尻雅弘、川上哲夫、中島良史の各氏に師事、1998年早稲田大学卒業。1992年マリア・カナルス国際音楽コンクール・ギター部門第3位。翌年アレクサンドリア国際ギター・コンクール「オマジオ・ア・アンドレス・セゴビア」で優勝。文化庁在外派遣研修員としてモーツァルトに留学。エリオット・フィスタ、ホアキン・クレルチ両氏のもとで、ルネッサンス及びバロック期の音楽を学びヨーロッパ各地でのリサイタルで高い評価を得た後、帰国。第10回出光音楽賞受賞。現在、NHK-FMクラシックリクエスト、パーソナリティを務める。

加藤知子 (Vn)
鈴木大介 (G)
デュオ・リサイタル



TOMOKO KATO
DAISUKE SUZUKI
DUO RECITAL

●プロコフィエフ／無伴奏ヴァイオリン・ソナタ ニ長調 Op.115

1947年ロシア革命20周年に人民芸術家として表彰されたプロコフィエフは、一連の記念音楽を作曲している。この曲は、ヴァイオリン・ソナタと名づけられてはいるが、この記念行事の一環として、20人のヴァイオリン奏者が一斉に演奏できるように作曲されている為、今日演奏される機会が非常に少ない作品となっている。モデラート（中庸に）、アンダンテ（ゆったりと）、コン・ブリオ（活発に）の3楽章から成るこのソナタは、他の晩年の作品と同じく、明快な旋律と構成、歌謡性が前面に現れているが、バッハの無伴奏作品がそのモデルとなったことは明白である。それほど高い評価を得ていない作品ではあるが、プロコフィエフの乾いた、シニカルなリズム感、ロシアの素朴な叙情性が簡素な形式の中にうまく融合している。バッハの代わりにプログラムに加えることのできる作品として極めて興味深い作品と言える。

●パガニーニ／カンタービレ

19世紀の偉大なヴァイオリニストであったパガニーニは、1801年から4年間、彼がまだ19歳であったにもかかわらず、演奏から遠ざかり世間から身を隠していた時期があった。実は彼はトスカナのある貴婦人と同棲していたのであるが、この夫人がギターを得意としていたので、この間パガニーニは10数曲のギターとヴァイオリンのための二重奏を書き残した。恋人との楽しいひとときのために書かれた「カンタービレ」は超絶的な技巧を排し、恋人にささやくような愛と安らぎの歌として生まれた。

●サラサーテ／「スペイン舞曲集」より アンダルシアのロマンス Op.22-1

19世紀屈指の名ヴァイオリニストであり作曲家であったサラサーテは、スペインのバンプローナに生まれた。最も名高い作品ツィゴネルワイゼンがハンガリーのジプシー音楽を題材にしていることから、彼はしばしば国籍を忘れられがちであるが、50数曲ほど残されている作品のほとんどが祖国スペインから靈感を汲んだ近代民族主義の輝かしい先駆者といわれる作品となっている。主要作品とされる（8つのスペイン舞曲）の第3番にあたる「アンダルシアのロマンス」は明るくしかも一抹の哀愁を湛えた南欧風な旋律の魅力で際立っている。

●ファリャ／「7つのスペイン民謡」より ホタ、子守唄、ポロ

マヌエル・デ・ファリャはスペインの管弦楽法の大家として知られているが、声楽とピアノの分野にも優れた作品を残している。代表作である「7つのスペイン民謡」はスペイン各地の民謡に基づき、ファリャが再創造した歌曲で、民族性豊かな旋律の美しさ、リズムのおもしろさが色濃く現れている。

「ホタ」は曲集中特に有名でしばしば単独でも歌われている。アラゴン地方の名高い民謡かつ舞曲で涙と笑いを同時に表現するホタ独特の曲調であるが、微妙に個性的な筆致の冴えが加わっている。「子守歌」はファリャの故郷アンダルシア地方の子守歌で、彼が幼い頃耳にした旋律だと伝えられている。二声部の伴奏は高声と低声が十六分音符1個ずつずらされていて、ゆりかごの揺れる趣を出している。「ポロ」はアンダルシアに定住したジプシー族の古謡で、もともとはテンポのゆるい落ち着いた曲調であるが、ファリャはあえて急なテンポと激しいリズムを与え劇的な性格が際立つ作品となっている。

●ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ

ラヴェルの作品の中でもポピュラーなこの曲は、彼がバリの音楽院在学中に書かれている。パヴァーヌは16世紀初頭スペイン宮廷で生まれた舞曲であるが、この作品の中にもその旋律が用いられている。「亡き王女のためのパヴァーヌ」というタイトルに特に明確な意味はなく、題名の響きが美しい為につけられたとする説が多いが、その当時ヨーロッパ最大の王国であったスペインの栄華の衰退を偲ぶニュアンスがあることは十分考えられる。原曲はピアノ独奏の為に作曲され、その後管弦楽に編曲されたものが、最も有名であるが、今回ギターによる編曲は、この曲の哀愁を帯びた美しさが十分に発揮されていて素晴らしい。ピアニストにとってイメージを広げるまたとない機会だろう。

●ドビュッシー／月の光

ドビュッシーの名曲中の名曲。4曲からなるベルガマスク組曲の中の一曲だが、ベルガマスクとはドビュッシーがイタリア留学中に訪れたベルガモ地方の舞曲とも、ヴェルレーヌの詩集「雅な宴」の一節にある「18世紀の宮廷風」の意味であるとも言われている。またこの詩集に「月の光」という詩も含まれている。広い音域をもつピアノのために書かれたこの曲をギターが様々な技巧を駆使して、色彩感豊かに表現する。

●ピアソラ／「タンゴの歴史」より 1930年代のカフェ、1960年代のナイトクラブ

自らが一流のバンドネオン奏者であったピアソラは作曲家としてタンゴの名作を次々と生み出し、今日のタンゴを確立したといわれている。彼の作品はギドン・クレメルやヨーヨー・マなどクラシックの演奏者にも取り上げられ90年代には世界的なタンゴ・ブームをもたらすことになった。

ギターとフルートの為に作曲された「タンゴの歴史」は、タンゴの発祥から作曲当時の1980年代までの4つの時代の、タンゴのスタイルを書いたものだが、本日取り上げるのは、そのうち第2曲と第3曲。タイトルがそれぞれの時代とタンゴの演奏された場面をそのまま表している。

●バルトーク／6つのルーマニア民俗舞曲

自らが民族音楽研究者であり、民族音楽学の先駆者であったバルトークは、東欧各地を巡り、民謡や民族音楽を採譜した。その長年の成果は、バルトークの一連の作品に現れるが、この舞曲集はトランスヴァニア地方で採譜した舞曲に基づいている。曲目は以下のとおり。1. 棒踊り 2. 腰帯の踊り 3. 足踏み踊り 4. 山頂の煙の踊り 5. ルーマニアのボルカ 6. 速い踊り。

本来ピアノ独奏のために作曲されているが、親しみやすいメロディと、現代的な新鮮な響きが好まれ、様々な編成に編曲されている。